

学位論文審査の結果の要旨

田開 寛太郎

本研究は、現代日本のコウノトリ野生復帰にかかる「湿地教育」の役割と可能性を明らかにしたものである。考察の素材を提供する事例として兵庫県豊岡市のコウノトリ野生復帰を取り上げ、特にコウノトリの生息地である湿地保全やワイズユースに関わる市民を対象とすることで、人とコウノトリとの付き合い方と「共生」関係を再考しつつも湿地資源の危機解決に向けた市民力の具現化に、教育的な意義を明らかにしたところに本研究の新規性を見出すことができる。本論文では、現代日本のコウノトリ野生復帰の反省的見直しを行い、市民を学習主体とした教育実践の意義を明らかにする中で、持続可能な湿地づくりといった「湿地のある地域づくり」に呼応した新しい教育のあり方を提起している。

本論文では、兵庫県豊岡市のコウノトリの野生復帰の実践分析から、「湿地教育」の3つの役割に注目した。すなわち、①市民科学化、②主流化、③国際化、の3つを通して持続可能な湿地づくりを支えていくと共に、コウノトリという象徴的な存在を軸に展開し、湿地のある地域づくりを志向した教育実践のプロセスの中で、国及び自治体の境界を超えた総合行政及び協働取組、農山漁村を取り巻く湿地の危機解決へと可能性を広げていく「湿地教育」のあり方を具体的に明らかにした。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

田開 寛太郎

最終試験は、平成30年1月6日に東京農工大学農学部にて、学位論文の公開発表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本審査委員会は田開寛太郎君が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士(農学)の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格と判定した。